

2022年2月17日

株式会社 TBM

報道関係者各位

## TBM、CO<sub>2</sub>を含む温室効果ガス排出量を可視化する クラウドサービス「ScopeX」を発表

～温室効果ガス排出量の削減施策を提案、カーボンニュートラルな社会実現を目指す～

株式会社 TBM（本社：東京都千代田区、代表取締役 CEO：山崎敦義、以下 TBM）は、温室効果ガス（GHG）排出量を可視化するクラウドサービス「ScopeX（スコープエックス）」のβ版の提供を開始したことをお知らせします。

気候変動は、今や企業価値を左右する重要な経営アジェンダであり、脱炭素社会の実現に挑戦する企業は、サプライチェーン全体で排出される GHG 排出量を把握する必要があります。一方、CO<sub>2</sub>を含む GHG の直接排出（Scope 1）と間接排出（Scope 2）、バリューチェーンで排出される GHG（Scope 3）は広範囲にわたるため、正確に測るためには時間を要し、分散されている情報の収集や各種報告書作成の業務効率化が求められています。

TBM はこれまで、ライフサイクルアセスメント（LCA）という分析手法を用いて、製品の原材料調達から廃棄に至るまでのライフサイクルにおける環境影響を算定し、石灰石を主原料とした素材「LIMEX（ライメックス）」や再生材料を 50%以上含む素材「CirculeX（サーキュレックス）」の素材開発や生産改善に活かしてきました。また、ハコベルコネクト CO<sub>2</sub>算定支援サービスを先行導入して LIMEX の輸送における Scope3 の可視化に取り組み、2021 年度 CDP では Scope3 まで算出、「気候変動」で「B」スコアを獲得する等、自社のバリューチェーンで排出される GHG 抑制に努めてきました。TBM が擁するサステナビリティ専門部署は、企業のカーボンニュートラルに向けたコンサルティングも実施しており、その知見や GHG 排出量を把握するノウハウを活用し、脱炭素社会の実現に向けた企業活動を支えるクラウドサービス ScopeX を開発するに至りました。

ScopeX を使用することで、原材料調達、製造、物流、廃棄等、一連の事業活動から発生する GHG 排出量を把握し、優先的に削減すべき対象を特定することができます。専門知識が無くても直感的に入力できる優れたユーザーインターフェースとなっており、複数拠点の環境関連データを一元管理できるため、担当者の作業工数を軽減することが可能です。今後、TBM をご支援いただいているパートナー含む導入先のユーザーに対して、GHG 排出量削減の為のソリューションを本サービス上でマッチングしていく機能を拡充していきます。



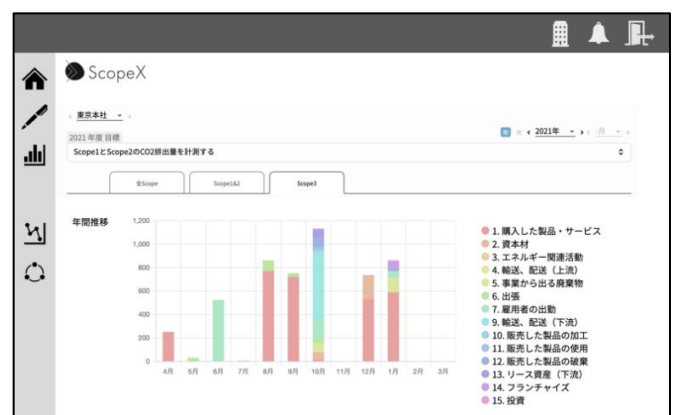
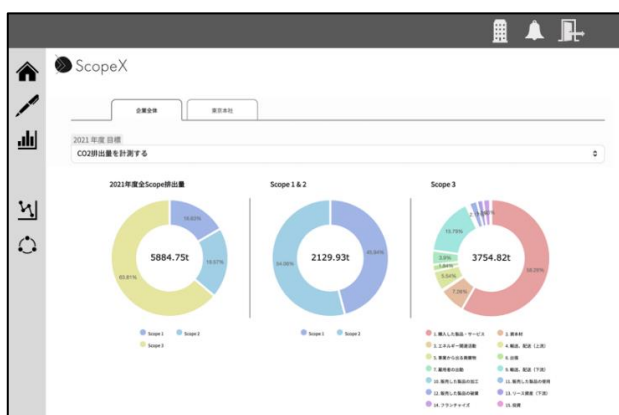
## ■ 背景

2022年4月4日の東証市場再編後、プライム市場に上場する企業は、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）提言に沿った、気候変動によるリスク情報の開示が義務付けられます。スタンダード市場とグロース市場も例外ではなく、開示が推奨されています。しかし、環境関連データの収集から算出プロセスまでを管理できる人材の確保が難しいという企業の声もあり、企業活動全体のGHG排出量を一元管理できる、操作性に優れたツールが求められています。

## ■ ScopeX サービス詳細

本サービスで算出するGHG排出量と報告項目は「GHGプロトコル\*」に基づいています。プロトコルでは、企業活動で排出されるGHGは、直接排出（Scope 1）と間接排出（Scope 2）、バリューチェーンで排出されるGHG（Scope 3）に分けられており、Scope 3には廃棄物、輸送など、15のカテゴリが存在します。ScopeXは、Scope 1-3にかかる企業活動のデータを入力いただくことで、会社全体のGHG排出量の算出が可能となり、拠点ごとの分析や拠点間の比較をすることができます。今後は、企業ごとの排出実績を元に算出したGHG排出量予測や企業の削減目標に沿った削減施策の総合提案をクラウドサービスにて展開して参ります。

\*GHGプロトコルとは、国際的に活用されているGHG排出量の算定、報告の基準です。



ダッシュボードイメージ

### 特徴 1：温室効果ガス排出の全容が分かるダッシュボード

拠点ごとにScope 1-3のGHG排出量を算出することができ、月や年別比較もできます。

### 特徴 2：専門知識が無くても入力・操作しやすい画面設計

企業活動における活動量を直感的に入力することができる画面設計になっています。

### 特徴 3：GHG排出量削減のための施策レコメンド機能

GHG排出量削減方法を模索している企業と、そのソリューションを持ち合わせている企業のマッチング機能や、エネルギー施策に留まらず、輸送や新素材の提案など削減施策の総合提案機能を段階的に追加予定です。

### [お申込み・お問い合わせ先]

本サービスの使用を検討されている方は、お問い合わせフォーム (<https://tb-m.com/contact/>) よりご連絡ください。

## ■ 株式会社 TBM

---

代表取締役 CEO : 山崎 敦義

本社 : 東京都千代田区有楽町 1-2-2 15F

設立 : 2011 年

資本金 : 234 億 2,993 万円 (資本準備金含む) / 2021 年 7 月時点

事業内容 : 環境配慮型の素材開発及び製品の製造、販売、資源循環を促進する事業等

URL : <https://tb-m.com/>

- ・ 2013 年 経済産業省のイノベーション拠点立地推進事業「先端技術実証・評価設備整備費等補助金」に採択
- ・ 2014 年 国内特許を取得し、現在、日中米欧を含む 40 ヶ国以上で登録。その他 100 件以上の特許出願を実施
- ・ 2015 年 宮城県白石市に年産 6,000 トンの LIMEX を製造する第一プラントを建設
- ・ 2015 年 経済産業省の「津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金 (製造業等立地支援事業)」に採択
- ・ 2016 年 米国シリコンバレーの「Plug and Play」で初の『世の中に最も社会的影響を与える企業ソーシャルインパクトアワード』を受賞
- ・ 2018 年 COP24 (第 24 回国連気候変動枠組条約締約国会議) に日本政府代表団として参加
- ・ 2019 年 軽井沢で開催された「G20 イノベーション展」に出展。G20 大阪サミット 2019 の会場での運営品として LIMEX 製品が採用
- ・ 2019 年 中国・河南省、モンゴルでの LIMEX 事業化に向けた基本合意を締結
- ・ 2019 年 代表取締役 CEO の山崎敦義が、「EY アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー 2019 ジャパン」Exceptional Growth 部門「大賞」を受賞
- ・ 2020 年 使用済みプラスチックなどの再生材料を 50%以上含む素材「CirculeX (サーキュレックス)」を発表
- ・ 2020 年 100%再生可能エネルギーの電力を LIMEX の生産拠点に導入
- ・ 2020 年 BtoC 向けの EC 事業「ZAIMA」を開始
- ・ 2021 年 宮城県多賀城市に年間 23,000 トンの LIMEX を製造する第二プラントを建設
- ・ 2021 年 韓国財閥の SK グループと 135 億円の資本業務提携を合意
- ・ 2021 年 神奈川県横須賀市で国内最大級のリサイクルプラントのプロジェクトを始動

---

\*本リリースに記載された会社名および商品・サービス名は各社の商標または登録商標です。

\*本リリースに記載された内容は発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。

---

————— この件に関するお問い合わせ先 —————

株式会社 TBM ブランド&コミュニケーションセンター 酒井菜摘

TEL: 03-6268-8915 Email: [pr@tb-m.com](mailto:pr@tb-m.com)